

# 2023年度 学校関係者評価 報告書

2024年4月  
尾北看護専門学校

## 2023 年度 自己点検・自己評価

自己点検・自己評価項目の達成及び取り組み状況

〈評価方法〉

- ・ 評価者：学校長以外の教職員（非常勤を除く）
- ・ 評価時期：年 1 回（3 月）
- ・ 評価方法：私立専門学校等評価研究機構「専修学校のための学校評価ガイドライン」にもとづく自己点検・自己評価を行う。
- ・ 評価尺度：4（適切） 3（ほぼ適切） 2（やや不適切） 1（不適切）

### 1. 教育理念・目的・期待する卒業生・学校経営

項目	小項目		評価
理念・目的・期待する卒業生像	1	理念・目的・期待する卒業生像は、明確に示されているか	3.75
	2	期待する卒業生像は社会経済や地域ニーズに適合しているか	3.25
	3	理念等の達成に向け特色のある教育活動に取り組んでいるか	3.41
	4	地域社会のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか	3.66
	5	理念・目的・期待される卒業生像、学校の特色等を学生・保護者に周知しているか	3.08
学校運営	6	理念に沿った運営方針を定めているか	3.66
事業計画	7	理念を達成するための事業計画を定めているか	3.75
運営組織	8	学校運営のための組織を整備しているか	2.83
情報システム	9	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	3.66

〈評価〉

看護基礎教育カリキュラム改正を機に教員全員で、教育理念・教育目的・教育目標を点検、見直しを行った。教育目標、期待する卒業生像に向けて、入学生の特徴、教員集団の特徴を踏まえ、地域の力を借りながら特色のある教育活動ができるように取り組んでいる。また、学校運営のための組織は、尾北医師会役員及び尾北医師会事務局の中から、運営組織を作り学校運営を行っている。近年は学校に起こる様々な課題に関して意見交換を行っている。

校内の DX 化について、2021 年度より Microsoft365 使用開始し、情報共有は cloud にて行っており、業務の効率化が図れている。その反面、PC があればどこでも仕事ができることがオンオフの切り替えが困難になる。

学生には教育理念・教育目的・教育目標については、入学前ガイダンス、入学後オリエンテーション時に説明している。

### 2. 教育活動

項目	小項目		評価
目標の設定	10	理念に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか	2.66
	11	修業年限に応じた到達レベルを明確にしているか	3.83

教育方法と評価方法	12	目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	2.33
	13	キャリア教育に取り組んでいるか	3.58
	14	授業評価を実施しているか	3
成績評価・単位認定	15	成績評価・単位認定が適切に運用されているか	3.91
資格・免許取得の指導体制	16	資格・免許取得は教育課程上で明確に位置づけてあるか	3.75
	17	資格・免許取得の指導体制はあるか	4
教員	18	資格・要件を備えた教員を確保しているか	2.91
	19	教員の資質向上のための取り組みを行っているか	2.75
	20	教員の組織体制を整備しているか	2.83

教育理念に沿って教育課程の編成を行ってきたが、旧カリキュラムはカリキュラム改正を見据えて見直しができている。カリキュラム変更に向けて、教育目標に沿って小グループを作成し、教育課程を編成した。次年度は新カリキュラム実施3年目を迎えるため、カリキュラム評価を行う予定である。

教員募集の際は資格要件を明示し公募を行っている。今年度は実習指導教員を1名採用した。専任教員要件を満たしていない教員が複数名いるが順次専任教員養成講習会に参加できるように調整している。看護研修センターや愛知県看護協会が主催する研修に参加し、看護教員としての資質向上を図っている。また、コロナ禍の影響で学会に参加したことがない教員も増えてきている。

### 3. 学修成果

項目	小項目		評価
就職率	21	就職率の向上が図られているか	3.25
資格・免許の取得率	22	資格・免許取得率の向上が図られているか	2.83
卒業生の社会的評価	23	卒業生の社会的な活躍や評価を把握しているか	3.08

就職率は100%であり、近隣の病院、愛知県内の病院に就職している。2年次より就職に関心を持たせるため合同説明会、インターシップや病院説明会の参加を促しており、病院選びや就職試験に対し意識付けしている。8月に卒業生のホームカミング日を計画し、在校生に向けて病院紹介や卒業生の現状を聞く機会を設けている。

今年度は3名看護師資格取得ができなかった。理由としては学生の主体性を重んじた結果である。3年生担当教員が年初に国試対策の年間経過を立て、模擬試験や国試対策講座を外部に委託し実施している。模擬試験の結果をもとに成績低迷者の学習支援を行っている。

卒業生の評価については、卒業生の就職病院が看護師募集の案内に来校いただいた時に卒業生の状況や課題について情報共有を行っている。

### 4. 学生支援

項目	小項目		評価
就職等進路	24	就職や進路に関する支援体制があるか	3

休学や中途退学者への支援	25	休学者の把握、退学率の低減に努めているか	2.83
学生相談	26	学生相談に対する体制を整備しているか	3.83
学生生活	27	学生の経済的な支援体制を整備しているか	3.91
	28	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
	29	課外活動に対する支援体制を整備しているか	3.16
保護者との連携	30	保護者との連携をしているか	3.83
卒業生への支援	31	卒業生への支援体制を整備しているか	3.75
社会人学生支援	32	社会人のニーズに合わせて支援体制の整備はできているか	4

今年度の退学率は5%であった。実習単位の修得が難しい学生や、生活面や学習面が整わない学生が進路変更の決断ができた。退学した学生は在学中に本人・保護者面談を重ね、自己の傾向の理解を深め退学に至った。1年次の入学式後に保護者に向けて、学校での取り組みや、学生生活についてガイダンスを行っている。戴灯式の後には、前期の状況や単位修得状況、学校生活状況について保護者に伝えている。人間味のある看護師の育成と地域に貢献する心の育成のために、サークル活動やボランティア活動を行っている。学生は、地域の自治体や自治組織が開催するイベントは恒例に参加しており高評価を得ている。

卒業生の支援については、最終学年時のクラス担当とLINEアプリでつながっており連絡が取れる状況にしている。離職時も速やかに次の職場に就けるようリスタート支援を行っている。今年度のホームカミングデイ参加率は56%であった。卒業生の状況は、日勤勤務ではフォロー体制がある中で自立して看護業務を行っており、夜勤も自立している者が30%いた。

社会人入学者の支援は、金銭面が多く随時相談できる体制を取っている。40代で入学した社会人学生は就職が本人の希望と病院のニーズを踏まえて就職支援を行っている。

## 5. 教育環境

項目	小項目		評価
施設・整備	33	教育上の必要性に対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4
防災・安全管理	34	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3.16
	35	学内における安全管理体制を整備しているか	3.75

2022年に全館無線LANが設置完了した。Microsoftアカウントを付与しており、学生自身でデータ管理を行っている。次年度より電子テキスト導入予定である。教育用具においては定数通り配置しており、劣化や破損の生じた時点で新品と交換している。次年度は実習室のベッドを交換予定である。

防災については年1回防災訓練を行い、シェイクアウト訓練や避難訓練を実施している。学年別に消火訓練、救護(包帯法、三角巾、護送法)、元自衛隊職人による災害支援について講義を聞いている。校内の安全対策は、貴重品は鍵付き個人ロッカーを使用するように指導し自己管理に委ねている。出

入口周囲には防犯カメラを設置し事務所で監視できるようにしている。感染対策に関して校内のマスク着用は個人の自由意思に任せているが、クラス内で感染が発症した場合はマスク着用の指示を出している。スピーディーに診察を受けて、集団生活に影響が出ないように、近隣のクリニックで感染症検査を受けられるようにしている。

## 6. 学生の募集と受け入れ

項目	小項目		評価
学生募集活動	36	学生募集活動は適切に行われているか	4
入学選考	37	入学選考基準を適切に行っているか	2.75
学納金	38	学納金は妥当なものになっているか	3.08

在校生の出身校に高校訪問を行っており、在校生の状況を伝えながら看護師希望者の把握を行っている。高校ガイダンスや模擬授業の依頼があれば参加し高校生と交流を深めている。入試選考は応募者が激減しており、近年は定員割れが続き、追加募集で入学生の充足をした経験から、一般入試を2回行うように計画した。2回目の入試で予想以上の応募があった。また、社会人のための学校説明会を実施し9名の参加者があった。

入試選考基準を設けているが応募者激減のため、正しく運用できていない。推薦入学希望者の学力評定基準を撤廃した。それによって応募者は横ばいで学力低迷者が増えた。

近年、追試験・再試験が多く、学生の学力低下が顕著に表われている。授業料に関して15年間は増額なしで運営できている。

## 7. 財務

項目	小項目		評価
予算・収支計画	39	教育目標との整合性を図り、単年度予算を中期的に計画しているか	4
年間の運営計画	40	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
監査	41	財政について会計監査が適切に行われているか	4
情報公開	42	財政情報公開の体制は整備しているか	4

予算執行については、事業計画に基づき予算計上を行い執行できている。予算計画については管理者が把握しているものを必要に応じて教員間に周知するようにしている。会計士により定期的に監査を受けている。財務に関して相談などもできている。学生からトイレの改修の要望があり、一部洋式トイレから全館洋式トイレへ、床を湿式から乾式に改修を行う予定であり会館整備運営拠出金からの執行となる。

## 8. 法令等の遵守

項目	小項目		評価
指定規則、専修学校設置基準	43	指定規則・専修学校設置基準を遵守しているか	3.33

自己点検・自己評価	44	自己点検・自己評価を行っているか	2.25
-----------	----	------------------	------

法令や専修学校設置基準等を遵守して適正に学校運営を行っている。自己点検・自己評価の仕組みが整っていなかったため今後は計画的に行うようにしていく。

## 9. 社会貢献・国際交流

項目	小項目		評価
地域貢献	45	地域ニーズを把握し、健康や看護について啓蒙・普及活動を通して地域貢献しているか	2.75
地域社会における資源の活用	46	地域に意図的に関わっているか	2.58
国際感覚・国際的視野	47	国際的視野を広げるための授業科目が設定されているか	3
留学生の支援	48	留学生の受け入れについて応じる体制があるか	3

教員は地域の学校からの依頼で「子どもこころの健康」について講演や「職業について」講話を行っている。学生は教科外活動の一環で一人1回以上ボランティア活動を行っている。

学生に国際感覚や国際的視野を持てるように、外国籍の講師を積極的に採用しており、講義の中で他国や多民族の文化的視点を取れ入れるように依頼している。

## 10. 研究

項目	小項目		評価
研究活動	49	研究活動は保証されているか	2.08
	50	研究活動を助言・検討する体制はあるか	1.83

研究活動は学校として活性化して行っていきたいが、教員の業務内容が煩雑化しており、研究に着手する環境がない。研究指導を一宮研伸大学の地域創成研修センターの研究支援部門に依頼できる。発表の場として、日本看護学校協議会学会やなごや看護学会などで発表できるように計画する。

## 2024年度に向けた課題

1. 看護師国家試験の安定的な合格のための、学力低迷者への支援
2. カリキュラム評価と改善
3. 教員の研究活動の促進と教員の質の向上

学校関係者評価委員

氏名 尾関 信子

所属 元愛北看護専門学校 副学校長

カテゴリー	講評
I. 教育理念・教育目的	2022年度から看護基礎教育のカリキュラムが改正に伴い、教員全員で教育理念から教育目的・目標を点検、見直しをされたことは、組織として看護師育成のため、教員が同じ方向に向かっていくためには必要な作業であり、強味にもなっている。
II. 教育目標	期待する卒業生像に向けて、入学生の特徴、教員集団の特徴を踏まえ地域の力を借りながら特色のある教育活動に取り組んでいることは評価できる。(地域とのつながりを持つためにボランティア活動の推進等)また、入学前ガイダンスや、入学後オリエンテーションで、父兄や学生たちに教育理念・教育目的・教育目標について説明することは、学校側としては重要なことである。
III. 教育課程経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生が就職した施設にアンケートを実施されている。施設が求める看護師像と期待する卒業生像の乖離を少なくするためだが、何より、看護基礎教育の質向上を考えての行動である。</li> <li>・教育課程編成の考え方、各分野の具体的な内容については授業概要に明示され、随時学生に説明されている。また、教員全体にも周知されているので、学生と教員が同じ方向に向かっていることは、良い点である。</li> <li>・教育計画は、教育課程の考え方をもとに、教育内容、科目構成シラバスまでを授業概要に掲載し、臨地実習においてもファイルにまとめ、学生や教員に配布し、基礎教育の土台になるものとして、3年間の折々にオリエンテーションで説明している。</li> <li>・教育課程評価の体系としては、授業評価・実習評価は学生にアンケートを取っている。その結果から随時授業内容変更もされているので良い点である。また、履修規定を作成されたことで、学生は履修の詳細を理解したうえで、学修に臨む姿勢に繋げていけるし、教員も、履修規定に整備された内容で指導が明確になり、偏りが無くなる。</li> <li>・看護職の職業倫理が示されているように、看護師にとっても人間性はとても大切である。懲戒規定を作成したことで、学生は基礎教育の時点で自らのあるべき姿を正せる。</li> <li>・教員の在籍も安定している状況なので、学生の指導にも好影響をもたらす。</li> <li>・学生の看護実践体験の保証については、実習施設との調整を図り、自施設の教育理念・目的・目標を理解してもらい、学生の実習環境を整えてもらう努力をしている。新カリキュラムでは、設置主体組織の協力のもと、開業医の見学も加えて、現在の日本の医療の仕組みを知ることできる。学生、教員両者にとって、多方面の実習施設があることは大変であるが、学生の学びが広がるし、看護師として活躍する場所としても理解できるので良い。</li> </ul>
IV. 教授・学習・評価過程	プロジェクト学習に移行された時点で、非常に詳細な実習評価表を作成され、学生も自らの取り組みが明確になり、指導者、教員も実習評価の物差しがあることで明確になっている。評価で到達不足の場合は、指導者と担当教員により中間面接が行われ、後半に向けて動機付けを行っていることは、学生の成長を育むためにはとても良いことである。

カテゴリー	講評
V. 経営・ 管理過程と財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織図を見る限り、学校設置主体である尾北医師会の医師・事務局からの支援を受けながら学校運営ができていることはとても良い環境であることが伺える。尾北医師会の学校設立の趣意、管理運営の考え方は教職員全員が理解している中で学校経営がなされている。経営についても、3市2町からの補助金は学校運営には欠かせない。</li> <li>・組織体制もしっかりしており、看護教員養成の教育実習生も受けている点などから、自校の専任教員の資質向上に繋がっている。学生への入学前ガイダンスが行われているが、現代は学校が一方向的に指導するには限界がある。看護師になるという夢は学生と家族(親)の願いであるなら看護学校での、3年間はどのような期間になるのかを家族に理解して頂き、共に支えてもらうことができれば良い。</li> <li>・看護大学が増加してきた中で、選ばれる看護専門学校づくりをしていかなければならない。社会情勢の変化を先取りし、予測されることを考え生き残りをかけた計画立案・行動を起こしていく必要がある。</li> </ul>
VI. 入学	<p>昨今、近隣に看護大学が増えたことで、受験者数が減少しているが、3月始めに受験日を設けたことで何とか入学生の確保は欠員になっていない。しかし、入学生の質という面においては問題が出るのも否めない。合格者の選抜については、どの学校も苦慮していると思うが、適正試験を取り入れていると思うので、今後、評価は必要になる。</p>
VII. 卒業・就職・ 進学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職先が、尾北医師会の管轄である3市2町が少なくなってきたのは問題意識とされているので、今後検討課題になる。卒業生の里帰り教室もされているようだし、何より卒業生が学校に来てくれるという環境づくりは素晴らしい。就職先の看護部長との連携も取れているのは、卒業生にとっても心強い。</li> <li>・就職活動も学生にとっては大事な活動であるが、学校としても支援をしているので、継続願いたい。</li> <li>・以前は進学者も多かったようだが、県内に大学が増えたことと、学生の学力低下があり、入学者が少なくなっている。中には志が高い学生もいるので、今後も進学の説明は継続して頂きたい。</li> </ul>
VIII. 地域社会・ 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科外活動に「ボランティア活動」を設定し、目的も明確に示し、学校祭にリンクすることで地域住民にも、看護学校の存在をアピールしていることは大変良い。</li> <li>・地域からのボランティア依頼が思ったより多かったのは、今までの学校での活動が評価されている結果だと思われる。</li> <li>・国際看護は、文化人類学とリンクして講義設定され、講師がJICAの経験者や外国人ということなので、多くの体験談をリアルに教授することができる。旧カリキュラムより、時間数も増え、講師も多方面から複数名となったので教育効果は高いと考える。</li> </ul>
IX. 研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究費や図書費を予算建てしており、研究活動の助言・支援できる体制もあることは非常に良い環境である。研究活動の必要性も理解しているが、看護教員の業務内容も多岐に渡り、量も多いため、研究ができる業務量の調整が必要になってくる。それでも、今後の教員の学会参加(雑誌投稿も含む)などの計画も立てられているので、遂行できる環境作りをお願いしたい。</li> </ul>



## 学校関係者評価委員

氏名 藤田 金生

所属 元木曾川西小学校 校長

元丹葉地方教育事務協議会 会長

元大口町教育委員

現大口町北自治組織 会長

### <学校関係者評価委員の講評>

愛情に満ちた学校、受容や共感的理解のできる人達が集まった集団というのが率直な第一印象です。専門学校という位置づけのため、盛りだくさんのことを短期間で修得させるという使命があり、厳しさも当然ある中でフレンドリーな校風が育てられていることに感心しました。職員の皆さん方は、働き方改革、国家試験全員合格、遅れのある学生の支援の3点を重点目標として共通認識され様々な試行や実施をされています。それが職員の所属感も高め良い結果につながっていると思います。国家試験全員合格という先生方の共通の目標は、確実に成果を上げていると思います。先生方の寄り添う姿勢もあって師弟の関係は良好で学校が一丸となっています。

新しい教育課程作成に向けて着実な検討がなされています。3年間という限られた期間であれもこれもと考えると内容が豊富になる心配もあります。学習方法をはじめ取捨選択できる内容等、学習の効率化も含め今後の研究に期待したいと思います。

シラバスの内容は大変豊富に思います。門外漢ですので内容云々は分かりませんがこれを全部修得するのは大変だと感じました。講義中心の学習形態が多いですが、学習者が課題を把握し、その課題を追求、解決に向けて学習を進めていくか、学習の効率化の面からも今後の研究に期待します。学生は多くの実習を積み上げて学習しますが、実習のオリエンテーションの位置づけをシラバスに明確にしていなくても良いか、せっかくのシラバス、簡易でもよいから製本をして学生と共有できたら等も感じました。

学生は実習に出かけ多くの知識を得て、実習記録に残します。実習記録は個人の財産であると共に指導側、後輩側にも貴重な資料です。共有が可能な部分は共有し活用の方法があればとも思います。

個々のフォローは確実にできており学生の支援は十分かと思いますが、交通アクセスの関係で遠距離の交通用具使用者も多く安全指導が必要です。また、交通事故等の場面に遭遇するかも知れません。その時の心構えも理解してくれたらと思います。

施設設備面では、限られた予算のやりくりで大変だと思いますが、洋式化の工事が予定されたトイレには人感センサーライトをつけてほしいと思いました。また、正面玄関通路にスロープを設けるとよいと感じました。学校東側の道路は拡幅される見通しがあり安全面に対する将来的な計画も必要です。

少子化の波の中、人々の考え方の変化、交通アクセスにも影響され学生募集は大変な時期を迎えています。欠員を出さない方策は大切ですが、学生だって本学に誇りを持っていると思います。今は学生を含め皆で本学の実績、特徴を発信する時だと思います。学生も自分ごととして捉え活躍してくれることを期待します。

学生の皆さんがボランティアや社会貢献で行事に参加していただく時は、その企画力、実践力に敬服しています。ダンボールベッド組み立て一つにしても参加者は嬉々として取り組んでいます。

シラバスの中にノーマライゼーション、地域包括支援システムの構築という言葉を見ます。しかし、一般的に障がいの理念を問えば認知症とかのリハビリテーションという医学的な傾向になりがちです。環境を捉えた人の生き様という社会的傾向は薄いように思います。すべての人がともに暮らしやすい地域づくりのためには、専門的な学問を取めた学生さんがその穴を埋めていただくこと、また、培われた能力を発揮して活躍されることが期待されます。学生が積極的に地域に出て、地域の人々と交流することで本学の知名度がより高まることが期待されます。